

案件

今後の中学校給食について

総合教育部 おいしい給食課

1. 施策等の背景・目的及び効果

中学校給食の持続可能なあり方、生徒にとって望ましい給食のあり方の検討を進めるにあたり、多方面から様々な意見を聴くため令和3年11月に設置し、全5回にわたり開催した「枚方市中学校給食のあり方懇話会」において、有識者やPTA、学校関係者からいただいたご意見を取りまとめましたので、その概要について報告するものです。

2. 内容

(1) 懇話会で聴取した主な意見

【現行の学校給食に関する意見】

本市の実施する学校給食を評価する意見やさらなる中学校給食の周知を求める意見、全員給食を求める意見がありました。

【栄養・健康に関する意見】

「中学生に必要な栄養素を適切な摂取に近づけるのが学校給食」「成長期に栄養や健康面で1日3食のうち1食でも学校給食を摂ることは意義がある」「栄養が考えられている献立がさらに広く保護者に伝わるようになれば」などの意見が示されました。

【教育・食育に関する意見】

食育及び学校教育の観点からの意見が多く示されました。「中学生期は食生活の自立に向けた大切な時期」「全員が食べることで自分の置かれている環境に悩まないことが必要」「みんなで食べる必要がある」「全員が対象であれば学校給食を活用した食育、学校教育としての食育を進めていくことが可能」などの意見がありました。

【提供方式について】

食缶方式及びランチボックス方式それぞれのメリット・デメリットについての意見がありました。「食べ残しや個々の食べる量、器の形状などの理由から食缶方式が望ましい」「ランチボックス方式は再加熱し保温時間も長いため食べるときの味ができ上がりと異なる」といった意見が多く示されました。また、感染症防止にはランチボックスは取り扱いやすいことや、「全員給食となれば実施可能な方式を選ぶしかない」「経費の面・食育の面から食缶

方式にすべき」「全員給食・食缶方式で実施している自治体が多いことを考えると枚方市でもできると思う」といった意見もありました。

【調理施設等について】

自校式、センター方式、民間調理場のそれぞれについて意見が出されました。「調理場は民間ではなく市が整備したもののほうがよい」「第一共同調理場との組み合わせがよい」、食育などの見地から「自校式がよい」「自校式が不可能であればセンター方式の調理場が望ましい」といった意見が出されました。このほか、「民間であれば調理場が遠くにあると栄養教諭や市の栄養士がなかなか見に行くことができずでき上がりが思ったものと違うことがある」という意見もありました。

【中学校における対応】

全員給食の学校現場における課題について、現場の教員の意見を聞くこと、全員給食や食

缶方式について学校現場の不安を払しょくするための意見を集めること、小学校の給食を見学することについての意見がありました。全員給食・食缶方式の場合の課題について、「給食にかかる職員の増員」「日課の変更」「食物アレルギー対応」などの具体的な意見が出されたほか、配膳室について、給食を食べる生徒が急増した場合の整備や学校規模により位置や大きさの検討、今後の生徒数の推移を考慮した整備の要・不要などの意見がありました。

【その他】

「今後の中学校給食については保護者等に意見を聞くというよりは有識者等の意見に基づいて決めていけばよいのではないか」「子どもたちへのアンケートは『食べたくないものはいらない』となるが給食は教育の一環であることに意味がある」「子どもたちへのアンケートは『ジュースを飲みたい』などの意見が出てくると思うが『ジュースを飲み続けたらどうなる？』などといった指導につなげられるきっかけにもなる」「市民に意見を求めるのであ

れば懇話会の経緯・内容をしっかり伝えたいという意見もあってほしい」「子どもたちのこれからのために、10年、20年後を見据えたものとしてもらいたい」などの意見がありました。

※意見詳細は、別添資料「枚方市中学校給食あり方懇話会での聴取意見」のとおり

(2) 今後の意見募集等について

「枚方市中学校給食あり方懇話会」からの意見を取りまとめるとともに、保護者・子どもへのアンケート調査を実施し、その結果も踏まえ、「(仮称)今後の中学校給食に関する方針(素案)」を作成します。この素案については、市民からの意見募集(パブリックコメント)を実施する予定です。

3. 今後の予定

- 令和4年（2022年）4月 「枚方市中学校給食あり方懇話会」からの意見の取りまとめ
- 5月 教育子育て委員協議会において、今後の中学校給食について説明
- 6～7月 アンケート調査実施
- 8月 教育子育て委員協議会において「（仮称）今後の中学校給食に関する方針（素案）」の説明
- 9～10月 パブリックコメントの実施
- 11月 教育子育て委員協議会において「（仮称）今後の中学校給食に関する方針（案）」の説明
- 12月 「（仮称）今後の中学校給食に関する方針」策定

4. 総合計画等における根拠・位置付け

総合計画 基本目標 一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち

施策目標 16 子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち



5. 関係法令・条例等

学校給食法

6. 事業費・財源及びコスト

なし

枚方市中学校給食あり方懇話会での聴取意見

第1回開催	：令和3年11月4日	15:00～17:00
第2回開催	：令和3年12月27日	15:00～17:00
第3回開催	：令和4年1月下旬	<個別意見聴取>
第4回開催	：令和4年2月24日	<書面開催>
第5回開催	：令和4年3月25日	15:00～17:00

【現行の学校給食に関する意見】

- 中学生の成長期に食事が重要であることはよく分かる。（有識者・学校長・PTA）
- 今の家庭の食生活は千差万別であり、それをサポートするのが学校給食だと思う。（有識者）
- 学校給食の（食材選定・献立作りなど）ここまで取り組んできたことを、栄養教諭などとも協力して、さらに頑張って進めてほしい。（有識者）
- 教師や周りの大人が声掛けすることにより、子どもが給食に対する姿勢が変わってくるという印象がある。（学校長）
- 給食を選択している生徒がきっちり食べているか。選択していない生徒の弁当は手作り、冷凍食品、コンビニなど様々。弁当がない生徒は菓子パンだけ、ほとんど食べていないなど、いずれも気になる。（有識者）
- 選択制の給食が始まってから、2校みてきたが、給食を選択していない生徒のほとんどは手作り弁当を持ってきており、毎日コンビニでパンを買ってというのは比較的少ないと思う。（学校長）
- 給食を食べている生徒も弁当を持ってきている生徒も比較的野菜を残しており、弁当や買ったものの内容も野菜がなかなか摂れていない。（栄養教諭）
- 献立表を見て、親同士で「おいしそうな給食だったね」、子どもと「寒くなってきたから温かいスープやご飯が食べられる給食にしようか」など話しをする。こんなに栄養のある給食が食べられるということをもっと周知してほしい。（PTA）
- コロナ禍において、現行のランチボックス形式は衛生管理面で扱いやすかった。（学校長・栄養教諭）
- 枚方市のランチボックス方式は、調理後、ランチボックスに盛付けてから再加熱を行い、保温時間も長いいため、調理作業に時間を要する。加えて、その後の保温状態が長くなるため、料理の色が劣化して鮮やかではない場合が多く見られる。（例えば、ネギの緑色が黒茶色になってしまう等）（栄養教諭）

- ランチボックス方式は、食べ残しても蓋を閉めて隠すことができるため、残したことが誰にも分らず簡単に残してしまう。（学校長・PTA）
- 現状でも給食時間が短い場合があり、全部食べ切れず残してしまう場合がある。（PTA）
- 栄養教諭としては、栄養価を考えるだけでなく、行事食や季節の食材を提供するなど、思いを込めた献立を考えている。（栄養教諭）

【栄養・健康に関する意見】

- 家庭から持参している弁当を見ると、野菜不足が多く、弁当の量が明らかに不足している生徒も見受けられる。購入弁当に関しても、菓子パンが多く、野菜や海藻類などがなかなか摂取できていない印象がある。（栄養教諭）
- 給食の有無による栄養素の摂取状況に違いがあり、給食のない場合の1日の摂取状況は、カルシウムなどのミネラル類やビタミン類、食物繊維等が明らかに少ないという結果がある。（有識者）
- 中学生にとって適切な摂取ができていない栄養素へのアプローチができていないのが（文部科学省；学校給食摂取基準データから）給食であることがわかる。（学校長・栄養教諭）
- 成長期の中学生の栄養や健康を考えると、大切な時期の1日3食のうち1食の学校給食でも、学校で全員給食を行う意義がある。（有識者）
- 生徒の健康を第一優先で考えると、全員が学校給食を食べることが大切では。（有識者）
- 子どもの心身の成長や栄養面、学校教育での食育を考えると、全員給食が良い。（有識者・栄養教諭）
- 栄養が考えられている給食の献立をもっと保護者に知ってもらえれば、給食が生徒にとって良いものであることを、もっと分かりやすく知らせてほしい。（PTA）
- 小学校5・6年生から痩身傾向が出てくるのが気になっている。（有識者）

【教育・食育に関する意見】

- 全員給食とすることで学校教育としての食育も進んでいくと考える。（有識者・栄養教諭）
- 中学生期は、食生活の自立に向けた大切な時期であり、食育を更に推進するためにも全員給食を明確に位置

づけることが大切ではないか。(有識者)

- 学校給食は栄養面の充実だけでなく日常の食習慣の形成においても重要。主食・主菜・副菜の考え方や食器への盛付け、食事マナー等を繰り返して学び実践できる場であり、習慣化できることは意味がある。(有識者)
- 食育推進の効率性・有効性を考えると、給食を教材として全生徒が学習することが望ましい。(有識者)
- 全員給食となれば、教職員の学校教育としての学校給食への協力も大きくなるのでは。(栄養教諭)
- 学習指導要領(文部科学省)の特別活動(2)オ「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」では、「給食の時間を中心としながら、成長や健康管理を意識するなど、望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通して人間関係をよりよくすること」明記されていることから、給食を活用した食育が求められている。(有識者)
- 栄養教諭の在籍の有無で食育等に差ができるのは良くない。例えば全員給食であれば、食育の教材として活用することができることを考えると、全員給食がその一歩となるのでは。(栄養教諭)
- 小・中学校の食習慣が当たり前になり、大人になっても引き継ぐことになる。(有識者)
- 中学生になると他者との比較について色々考える時期でもあり、昼食においても、弁当・給食・購入して食べるなど内容を比べることで悩むこともある。すべてにおいて平等性を持たせることが大切。(有識者)
- 全員が給食を食べることによって、自分の置かれている現状に悩まない。(有識者)
- アンケートの生徒の献立に関する意見をみると「食べたくないものはいらない」という結果と受け止める。好きなものばかり提供するのは給食ではない。給食は教育の一環で、だからこそ意味がある。(PTA)
- 現場の先生にもっと興味を持ってもらい食育をしていかなければならないという意識が必要。(有識者)
- 食育を推進するにあたっては、家庭の食生活と切り離すことはできず、その内容を把握することは難しいが、全員給食ならば昼食に関してはその内容が把握できるとともにマネジメントもできる。(有識者)
- 全員給食は学校教育が果たすべき食育を計画的・継続的に推進することができる。(有識者)
- すべての生徒が丈夫な体をつくることは教育の根本。家庭での食事で摂取量が不足していると推測される栄養素を補い、安全安心な給食を継続的にすべての生徒に平等かつ安定的に提供することは重要。(有識者)

【提供方式について】

- 全員給食・食缶方式で行っている自治体が多いことを考えると枚方市でもできると思う。(有識者)

- 食缶方式は実際に稼働したら、子どもたちの方がよく分かっているの、先生方が多く関わらなくとも自分たちでやっていくと思う。(有識者)
- 食缶方式は小学1年生から6年生まで経験していること。中学校になってもそのまま継続でやれると思う。(PTA)
- 個に応じた分量の学校給食を提供することや献立のバリエーションを広げると食缶方式が望ましい。(栄養教諭)
- 給食は継続的にする必要があり途中でなくなると意味がなく経費・食育面から食缶方式がよい。(有識者)
- 食缶方式ではご飯は茶碗となっているので茶碗を手に持って食べる児童が増えている。(栄養教諭)
- 衛生面や中学校の日課を考えるとランチボックス方式がよいのではないか。(学校長)
- 食缶方式・ランチボックス方式それぞれのメリット、デメリットの話があったが、全員給食を開始するとなれば、実施可能な方式を選ぶしかない。(学校長)
- 学校運営の立場としては、ランチボックスの方が現場もスムーズなのではないかと思う。(学校長)
- 現行のランチボックスを改め、温かい給食の提供や量の調整に対応できる食缶方式は、フードロスの削減にもつながる。(有識者)

【調理施設等について】

- 調理方式は、経費がかかるのは理解しているが、理想としてはやはり自校式がよい。(栄養教諭)
- 自校式であれば栄養士などに色々聞きやすいと思う。(PTA)
- 市が建設できないなら、現在の第一共同調理場で半数、民間で半数の交互に運用という方法もあるのでは。ただし、市と民間で容器が違うなどとなれば、生徒や教員に戸惑いが出る。(学校長)
- 調理場を市で建設するのか民間とするのかでは、やはり、市で建てた方が、市の思いを給食に反映しやすくなると思う。そうなるのかなり時間はかかると思う。(学校長)
- 自校式・食缶方式がよいが、物理的・予算的に難しいのであれば、新たなセンター方式の調理場の設置が望ましい。(有識者)
- 民間調理場活用については、市外の離れた場所に調理場があると、栄養教諭や市の栄養士がなかなか見に行くことができず、給食のでき上がりが思っていたものと違うことがあるので注意が必要。(栄養教諭)

- 民間調理場であれば、残食の把握などが困難。（有識者）
- 全員給食は実現してほしいがこれほどお金がかかるならじっくり考えなければならない。（PTA）
- 子どもたちのこれからのために、10年、20年後を見据えた事業としてもらいたい。（PTA）

【中学校における対応】

- 配膳室は全員給食となると今の規模では難しいところがある。家庭で作るより、給食で栄養のあるものを食べられるなら…という理由で給食の喫食率が急激に増えた場合、現状で対応はできるのか。（PTA）
- 配膳室は今後の生徒数の推移も考慮して、整備の要・不要を考えていく必要がある。（学校長）
- 学校規模によっては給食を教室に運ぶまでに時間がかかるので、（提供方式にかかわらず）配膳室の位置や大きさも検討する必要がある。（栄養教諭）
- 学校現場は全員給食となったときに何が大変なのか具体的な課題を挙げてもらう必要がある。（有識者）
- 全員給食となれば、中学校PTAでも給食委員が必要になると考える。方向性が決まれば早めに周知してほしい。（PTA）※令和4年度から各中学校から委員選出の予定
- 全員給食や食缶方式に転換する際、教職員の不安が一番多いと思われるので、不安を除くよう回答したり、中学校の教職員が小学校給食の様子を見に行ったりすることで給食への理解が深まると思う。（栄養教諭）
- 全員給食・食缶方式となると、学校現場の課題は多い。給食に係る職員の増員や日課の変更などが必要。（学校長）
- 全員給食となると食物アレルギー対応に課題がある。（学校長）
- 中学校担当の栄養教諭は小学校に比べ人数が少ないので、献立を立てるのもかなりしんどいと思う。（学校長）
- 中学校の教育活動が円滑に進められるように全員給食実施を想定した学校現場の状況やカリキュラムの課題を抽出・解決することが優先かも知れない。（有識者）

【その他】

- 子どもたちにとって、何が大切かを考えることが最も重要である。（有識者）

- これからの社会を支えていくのは子どもたち。これからの社会を担う子どもたちのことを考えてほしい。
(PTA)
- 今は予算がないから仕方がないではなく、子どもたちの健康や教育のことを考えたときに、どうしていきべきかを考えて進めることこそが大切。そうしないと、いつまでも進まない。(PTA)
- 出来る限り早く中学校の全員給食が叶えばという保護者の意見をよく聞く。(PTA)
- なぜ、小学校になれば全員給食なのかという原点を考えることが、中学校給食を考える際にも必要。
(PTA)
- 幼稚園から小学校にあがるときに給食になるのが当たり前であるのと同じで、給食が普通になれば中学校も同様である。(PTA)
- 保護者の間では、「なぜ給食が選択制なのですか」という質問が多く寄せられている。(PTA)
- 今後の中学校給食の方向性については、保護者に聴くというより、有識者などの意見を基に決めていけばよいのではないか。(PTA)
- 過去の保護者・子どものアンケートの結果から関心を持ってもらうことも必要ではないか。(PTA)
- 保護者に向けて、子どもの栄養素接種状況の課題点を周知するとともに、中学校給食の意義、期待される効果などを伝えた上でアンケートを実施する。(有識者)
- アンケートでは中学校全員給食の賛否のみならず、気になる点、期待(希望)することを調査する。
(有識者)
- アンケートでの生徒の意見は「ジュースを飲みたい」というものもみられるが、「ジュースを毎日飲んだらどうなると思う?」「なぜ魚を食べなきゃいけないと思う?」など、それをきっかけにした指導につながれる。アンケートは指導のチャンスにするとよい。(有識者)
- 市民に意見を求めるのであれば、懇話会の経緯や内容をしっかり伝えた上で意見をもらってほしい。「これからの子どもを育てていく」ということを念頭に置いて考えてほしい。(栄養教諭)
- 子どもの給食に対する意見はあくまでも嗜好の部分。献立作成時に考慮すればよいこと。(栄養教諭)
- 枚方市は中学校全員給食を前向きに検討する時期。生徒の健康上、教育上なぜ実施しないのか、実施できない理由を明らかにすることも必要。(有識者)
- 子どもたちのこれからのために、10年、20年後を見据えた事業としてもらいたい。(PTA)